

国内外で活躍する13名のクリエイターと考える
 "なんかいい"プロダクトの展示会「わからなさの引力」展
 21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー3（東京・六本木）で9日間開催

(株)NTTドコモは、テクノロジーの進化の中、機能的・理性的に価値をはかるうとすることでこぼれ落ちてしまっていた「なにか」を探る展示会「そばにあった未来とデザイン『わからなさの引力』展」を、東京・六本木で開催します。

国内外で活躍する13名のデザイナーやクリエイティブディレクター、美術家や研究者の暮らしのそばにあった、言葉では表しにくいけれども“なんかいい”と感じるプロダクトを日常生活の中から選んでいただき、展示することで、曖昧な「わからなさ」という感性の裏側を、来場者とともに模索する機会をつくります。

会場は、東京・六本木の「21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー3」です。

開催期間は2023年3月18日(土)～26日(日)です。来場予約は不要で、入場無料です。

NTT docomo

2023.
3.18 Sat - 26 Sun

入場無料
 会場：21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー3
 開館時間：10:00-19:00 全期中無休
 協力：AXIS 主催：NTTドコモ

Drawn to Ambiguity
 Designing the future at our side

Admission Free
 10:00-19:00 Open every day
 Partners : AXIS
 Organized by NTT DOCOMO INC.

*** 伊藤 亜紗
 *** AKI INOMATA
 クリエイティブディレクター/編集者 岩佐 十良
 グラフィックデザイナー 岡本 健
 デザインエンジニア 緒方 壽人
 プロダクトデザイナー 倉本 仁
 クリエイティブディレクター 齋藤 精一
 プロダクトデザイナー 鈴木 元
 クリエイティブディレクター/デザイナー 辰野 しずか
 *** 田根 剛
 グラフィックデザイナー 長嶋 りかこ
 デザイナー 三宅 一成
 *** 宮島 達男

わからなさの
 引力展

GALLERY 21_21 3

<展示参加>伊藤 亜紗、AKI INOMATA、岩佐 十良、岡本 健、緒方 壽人、倉本 仁、齋藤 精一、鈴木 元、辰野 しずか、田根 剛、長嶋 りかこ、三宅 一成、宮島 達男（五十音順・敬称略）

国内外で活躍するクリエイターら13名の“説明しがたい魅力をもつモノ”を展示

本展では、13名のクリエイターらが日常生活の中から選んだ、それぞれにとって「説明しがたい魅力をもっているモノ」と、それらが醸し出す「わからなさ」の魅力を探る言葉を展示します。プロダクトを選んだクリエイターら本人の言葉と、当社プロダクト部プロダクトデザインチームの言葉、さらにデザインに携わるAXIS編集部からの言葉。これらの多様な視点を通して「わからなさ」に目を向け、「感覚」や「機微」といった感性的なよさの未知なる可能性やその裏側にある豊かさについて、来場者の方と一緒に考えたいという想いを込めています。

展示するプロダクトは、ソフトビニールでできたトラの人形やコンベックス(巻尺)、虫食いの欄間、ペラペラの温泉タオルなど様々です。各界で先端を走り続ける13名の無限の可能性を秘めた「わからなさ」を一堂に集めることで、暮らしを豊かにするヒントを見つけるきっかけになればと考えています。

言葉にしがたい“わからなさ”の感覚を、モノを通して考える

展示するプロダクトは、大量生産された工業製品だけでなく、「日用品」や長年使い込んだ「愛用品」、さらには「自然物」など多種多様です。

テクノロジーが進化した現代社会においては、「わからないこと(非効率、感性)」が排除され、「わかること(効率的、理性)」に重きが置かれています。そんな時代の中で、当社はテクノロジーを扱う会社として、暮らしの中で人に寄り添い、誰もが豊かさを享受するために必要なことを考えてきました。

その中で見えてきたのは、便利さや効率を追い求めるがあまり、こぼれ落ちてしまっている感性的な価値について考えることがとても大切なのではないかとことです。

普段の会話で何気なく使われている「なんかいいよね」は、誰もが感じる曖昧な感覚を表した言葉です。社会課題が複雑化し、説明することに限界を感じる現代にこそ、そんな「なんかいい」と感じる裏側に潜む、「わからなさ」に目を向けてみる必要があると考え、当社プロダクト部プロダクトデザインチームは、今回“わからなさ”をキーワードにしました。

本展を通して、無限で、探求し続けられる“わからない” “なんかいい”といった魅力の価値を、参加クリエイターらと来場者が一緒に模索し、これからも共にありたいものや、未来に連れていきたいものと、その価値について想像するきっかけになればと考えています。

少し先の未来の暮らしを豊かに

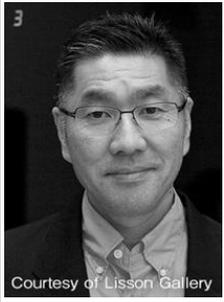
スマートフォンなどのプロダクトデザインを担当する当社プロダクト部プロダクトデザインチームは、その方向性を探る目的で、少し先の未来の暮らしをデザイナーらと考える研究プロジェクトを、年間を通じて行っています。また、2010年からは、プロダクトデザインに取り組む姿勢などを表現すべく、展示会も開催してきました。

今年度は、デザインディレクターを務める宮沢哲ら当社メンバーが、いつも身の回りにあるけれど気づかない、“わからなさ”について対話することから、プロジェクトが動き始めました。複雑化した社会の中でこぼれ落ちてしまっている感性的な価値を客観的な視点から探ることで、未来の豊かさや、これからのプロダクトデザインの役割を考えます。

<参加デザイナー・クリエイターについて> (五十音順・敬称略)

氏名		肩書	プロフィール
伊藤 亜紗 (いとう あさ)		美学者・東京工業大学教授	障がいや病の当事者への聞き取りを通じて、人間の体を持つ可能性と不思議について研究している。主な著作に『目の見えない人は世界をどう見ているのか』(光文社)、『どもる体』(医学書院)、『記憶する体』(春秋社)、『手の倫理』(講談社)、『体はゆく できるを科学する(テクノロジー×身体)』(文芸春秋)など。大学では人文社会系および理工系の研究者とともに「利他プロジェクト」を推進中。
AKI INOMATA (あき いのまた)		美術家	生きものとの関わりから生まれるもの、あるいはその関係性を提示している。主な作品に、「やどかりに『やど』をわたしてみる」(2009-)、「犬の毛を私がまとい、私の髪を犬がまとう」(2014)など。十和田市現代美術館や金沢 21 世紀美術館で個展を開催するほか、第 22 回ミラノ・トリエンナーレ(2019)、「Broken Nature」(2021)などの国際展・グループ展に参加してきた。作品の主な収蔵先に、ニューヨーク近代美術館、南オーストラリア州立美術館など。

<p>岩佐 十良 (いわさ とおる)</p>		<p>クリエイティブディレクター／編集者</p>	<p>1967年東京都生まれ。1989年にデザイン会社を創業。のちに編集者に転身し、2000年に雑誌『自遊人』を創刊。2004年には拠点を東京から新潟・南魚沼に移す。2014年に体験型複合施設「里山十帖」を開業した後はリアルメディアとしての宿泊施設を多数手掛け、「プロフェッショナル仕事の流儀」にも出演。主な仕事に「えちごトキめきリゾート雪月花」「山形座瀧波」など。</p>
<p>岡本 健 (おかもと けん)</p>		<p>グラフィックデザイナー</p>	<p>1983年群馬県太田市生まれ。千葉大学文学部行動科学科にて心理学を専攻。研究の一環で調べたグラフィックデザインに興味を持ち方向転換。卒業後、数社のデザイン事務所にて実務経験を積み、ヴォル、佐藤卓デザイン事務所を経て2013年に独立。2020年より長野県御代田町に移住し、東京と長野の2拠点を行き来しながら、仕事の傍ら木工などに勤む。</p>
<p>緒方 壽人 (おがた ひさと)</p>		<p>デザインエンジニア (Takram)</p>	<p>デザイン、エンジニアリング、アート、サイエンスまで領域横断的な活動を行う。主なプロジェクトは、月面探査ローバーの意匠コンセプト立案とスタイリング、NHK Eテレ「ミクリーズ」アートディレクション、「アスリート展」展覧会ディレクターなど。近著に『コンヴィジュアル・テクノロジー』。2021年から長野県の御代田町に移住し、テクノロジーと人間と自然のちょうどよいバランスを考える日々。</p>
<p>倉本 仁 (くらもと じん)</p>		<p>プロダクトデザイナー</p>	<p>1976年兵庫県生まれ。2008年に東京・目黒に JIN KURAMOTO STUDIO を開設。プロジェクトのコンセプトやストーリーを明快な造形表現で伝えるアプローチで家具、家電製品、アイウェアから自動車まで多彩なジャンルのデザイン開発に携わる。素材や材料を直に触りながら機能や構造の試行錯誤を繰り返す実践的な開発プロセスを重視し、プロトタイピングを行う自身の“スタジオ”は常にインスピレーションと発見に溢れている。</p>
<p>齋藤 精一 (さいとう せいいち)</p>	 <p>Muryo Honma (Rhizomatiks)</p>	<p>クリエイティブディレクター</p>	<p>パノラマティクス主宰。建築デザインをコロンビア大学建築学科(MSAAD)で学び、2000年からニューヨークで活動を開始。2006年にライゾマティクス(現アブストラクトエンジン)設立。社内アーキテクチャー部門「パノラマティクス」を率い、行政や企業の企画、実装アドバイザーなどを数多く行う。</p>
<p>鈴木 元 (すずき げん)</p>		<p>プロダクトデザイナー</p>	<p>1975年生まれ。スタジオを自宅に併設し、生活とデザインを隔てないアプローチで、日用品や家具、家電など、毎日の生活のためのプロダクトデザインを国内外の企業と行っている。主なクライアントにハーマンミラー、無印良品、キャスパー、パナソニックなど。米クーパーヒューイット国立デザイン美術館永久収蔵など受賞多数。2023年英D&AD賞プロダクトデザイン部門審査委員長。</p>
<p>辰野 しずか (たつの しずか)</p>		<p>クリエイティブディレクター／デザイナー</p>	<p>1983年生まれ。ロンドンのキングストン大学プロダクト&家具科を卒業。デザイン事務所を経て、2011年に独立。2017年より Shizuka Tatsuno Studio を設立。家具、生活用品、ファッション小物のプロダクトデザインを中心に、企画からディレクション、ブランディング、付随するグラフィックデザインなどさまざまな活動を国内外で行っている。2021年からは実験的なアート制作にも取り組む。</p>

田根 剛 (たね つよし)	 Yoehiaki Tsutsui	建築家	1979 年東京都生まれ。ATTA - Atelier Tsuyoshi Tane Architects 代表。フランス・パリを拠点に活動。場所の記憶から建築をつくる「Archaeology of the Future」をコンセプトに、現在ヨーロッパと日本を中心に世界各地で多数のプロジェクトが進行中。主な作品に「エストニア国立博物館」「弘前れんが倉庫美術館」「アルサーニ・コレクション財団・美術館」「帝国ホテル新本館(2036 年完成予定)」など。
長嶋 りかこ (ながしま りかこ)		グラフィックデザイナー	1980 年生まれ。2003 年武蔵野美術大学視覚伝達デザイン科卒。デザイン事務所「village@」を設立し、アイデンティティデザイン、サイン計画、ブックデザイン、空間構成など、グラフィックデザインを基軸としながら、社会的意義のある活動の視覚的翻訳者として機能したいという想いでデザインに携わる。廃棄物の再利用や削減を組み込んだデザインの提案や活動も行う。
三宅 一成 (みやけ かずしげ)		デザイナー	デザイン事務所、miyake design 代表。国内外の企業とともに、「価値をかたちにする」という観点からデザインを行っている。そのデザインされる「かたち」は単に物理的な存在にとどまらず、そのものを取り巻く雰囲気や佇まい、それに接する人への影響にまで及ぶ。余計なものを排除した明瞭で無駄のないデザインは幅広い分野の電化製品や家具、生活雑貨、自転車、伝統工芸品など多岐にわたって製品に応用されている。
宮島 達男 (みやじま たつお)	 Courtesy of Lisson Gallery	現代美術家	1957 年東京都生まれ。「それは変化し続ける」「それはあらゆるものと関係を結ぶ」「それは永遠に続く」というコンセプトに基づき、数字が変化するデジタルカウンターを使ったインスタレーションを中心に制作を行う。長崎で被爆した柿の木の木苗を世界各地に植樹する「時の蘇生・柿の木プロジェクト」や、東日本大震災犠牲者の鎮魂と震災の記憶の継承を願う作品「時の海—東北」など、社会的な参加型プロジェクトにも力を入れる。

展示会 概要

イベント名	そばにあった未来とデザイン「わからなさの引力」展		
会期	2023 年 3 月 18 日(土)～26 日(日) 計 9 日間、会期中無休		
時間	10:00～19:00	入場料	無料
会場	21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー3 (東京都港区赤坂 9-7-6 東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン)		
会場での 新型コロナ 対策	<ul style="list-style-type: none"> ・会場入口で非接触型体温計により全ての来場者の検温を実施し、37.5 度以上の発熱のある来場者の方は、恐れ入りますが、入場不可とさせていただきます。 ・入場時のアルコール消毒液を使用した手指の消毒を実施いたします。 ・3 月 13 日(月)より、21_21 ではお客様の館内でのマスク着用を「推奨」としております。 ・スタッフは引き続き、業務時間内・接客時はマスクを着用してまいります。 		
一般問合せ	contact@wakaranasa-inryoku.com	公式ホームページ	https://design.idc.nttdocomo.co.jp/event/
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止における対応は、状況に応じて変更する可能性があります。 ・会場内の写真撮影および SNS 投稿可 		

(株) NTT ドコモ 企業概要

社名	株式会社 NTTドコモ	営業開始	1992年7月1日
本社	100-6150 東京都千代田区永田町2丁目11番1号 山王パークタワー		
代表	代表取締役社長 井伊 基之	資本金	9,496億7,900万円(2022.3.31時点)
URL	https://www.docomo.ne.jp/	代表電話	03-5156-1111
事業内容	通信事業、スマートライフ事業、その他の事業		

————— **報道各位からの問い合わせ先** —————

「そばにあった未来とデザイン『わからなさの引力』展」広報事務局(Clover PR 内)

担当 富田(070-2666-6165)、根岸(080-2388-6263)、澤本

03-6452-5220 (tel) nttdocomo-pr@cloverpr.net (mail)